

指定を目指し、権利者の皆さまが一日も早く住宅を再建できるよう、県と一体となって事業を推進します。都市計画道路路益城中央線4車線化事業(県道熊本高森線)は、広崎・安永地区で3か所がモデル地区として着工され、今後とも用地の契約が完了し、発注可能となった区域から順次、着工される予定

です。
町で取り組む「横町線」、「益城東西線」、「南北線」、「第二南北線」の都市計画道路4路線では、復興事業により移転を余儀なくされる方々が継続して本町に住み続けられるよう、「新住宅エリア」や災害公営住宅に関連する路線を優先的に整備していきます。まちづくり協議会から提案された避難路、避難地などについても、優先度の高い箇所から整備していきます。

公共土木施設では、道路、河川、橋梁、里道、水路の復旧事業やがけ崩れ対策事業をさらに加速し、まちづくりに欠かせないインフラの機能充実を図ります。

被災宅地の復旧支援として、擁壁の復旧工事を行う大規模盛土造成滑動崩落防止事業を重点的に進めます。また、壊れた擁壁や宅地復旧に加え、新たに創設した宅地の地盤改良工事や建物耐震化事業で生活再建を後押しします。

公共下水道では、上陳・下陳地区の管渠整備と併せて、災害公営住宅の建設予定地の一つである益城台地土地区画整理西地区の整備を行い、将来的に人口増加が見込まれている新住宅エリアの取り込みも視野に入れた対

策を行っていきます。

5 「地域力」により創出する活気あるまちづくり

商工業の活性化には、復興に向けたにぎわいのあるまちづくりが重要課題であると考え、「中心市街地活性化事業」による都市機能の増進および経済活力の向上を図っていきます。特に、商工会との連携により、にぎわいづくりの拠点「まちづくり会社」の設立に向け、鋭意努力します。

また、国天然記念物布田川断層帯の震災遺構を核とした観光ルートを確立し、「益城プログラム」として観光客や教育旅行を呼び込み、熊本地震の風化防止にもつなげるとともに、「益城町みんなの夏祭り」を復活させます。農業政策につきましては、被災した農業者の経営維持・安定を図るため、一日も早い災害復旧に取り組んでいきます。新たな農作物として推進している大麦若葉の特産品化を目指し、農業所得向上につなげていきます。

6 「誰もが主役になれる個性的なまちづくり」

まちづくりを「地域づくり」と捉え、町民全員がその主体となり、そして町や町議会、民間、大学など関係する人々も主体となるような取り組みを進めます。特に、各地域の課題解決やコミュニティ形成などによるにぎわいづくりを進めるには、地域住民などの知恵や行動が必要なことから、各地域のまちづくり協議会やまちづくり活動団体などの活動を全面的に支援します。併せて、本町の未来を見据え

たまちづくりを考える「新ふるさと総合研究所」などを通して、まちづくりに関する人材育成を継続します。

益城町の活力を向上させ、価値を高め、明るく住み良いまちの実現を図るため、男女や障がい者などが共にその能力を発揮できるよう「協働のまちづくり」を強力で推進します。また、人権教育および人権啓発の推進に努め、差別のない明るい社会を目指します。

7 「まちの魅力」を伝えみんなに選ばれらるまちづくり

壊滅的な被害を受けた町というイメージを払拭し、人口減少を防止するため、特に若い世代に本町を訪れてもらい、興味を持ってもらうことから始め、移住、定住につなげていきます。その方策として、農産物をはじめとする資源を磨き上げ、教育旅行を含め人々が安心して本町を訪れるよう、町の情報を町外に向けて積極的に発信していきます。町の情報発信媒体のみでなく、今後は企業や団体などにも協力いただき、また、町民の皆さまや関係者一人一人にも益城町の情報を発信していただけるような取り組みへと広げていきます。

8 「効果的で効率的な行政運営」を図るまちづくり

大変厳しい財政状況にある中、復旧・復興事業を着実に推進していくため、事務事業の見直しはもちろん、町税や住宅使用料などの未収金対策、使用料手数料の見直しや新たな財源確保対策などを確実に実行することで、

歳出削減を進め、持続可能な財政運営に努めます。

町民の皆さまの利便性向上を図るため、コンビニエンスストアでの各種証明書発行サービスを継続しながら、個人情報保護の保護に最大限配慮し、さまざまな災害にも対応できるようなソフト面およびハード面での体制強化に努めます。さらには、転出・転入届出などに関する煩雑な手続きが、早く分かりやすく、ワンストップで済ませられるよう、窓口の業務委託を視野に入れた、町民目線の窓口サービスをづくりを行っていきます。

新庁舎や複合施設の整備につきましては、町民の皆さまの意見を取り入れながら、基本設計、実施設計に取り組みで行きます。

結びに

私の「今年の漢字」として、『想』を挙げました。過酷な環境に置かれた町民の皆さまに少しでも想いを寄せ、これからも「被災された方々の生活再建」を第一に、対話を重ねながら、復興計画に掲げる『住みたいまち、住み続けたいまち、次世代に継承したいまち』の実現に向け、着実に一歩、一歩、歩みを進めていく覚悟でございます。復興の主役はあくまで町民の皆さまです。今後とも、皆さまのお知恵とお力添えをいただきながら、『オールましき』の強い決意のもと、未来の町の豊かな姿を思い描きながら、復旧・復興に総力を挙げて取り組んでいきます。

益城町長 西村 博則